

自分たちでできる対策 クマの被害に遭わないために

出会わない

・複数人で行動する

できるだけ複数人で行動し、会話をしながら歩くようにしましょう。



・鈴などで存在を知らせる

クマ鈴や笛など音の出るものを携帯し、存在を知らせましょう。



・朝夕の外出は注意する

クマは朝夕に行動が活発になります。この時間帯の外出は注意しましょう。



出会ったら

・落ち着いて、刺激しない

- 近づくかない
- 背を向けず、クマから目を離さない
- 急に走らない
- 静かに立ち去る



襲われそうになったら

・地面に伏せて防御する

うつ伏せになり、顔と首、腹部を守りながら、両手で首を保護する防御姿勢をとりましょう。クマ撃退スプレーを噴射するのも有効です。



《北上市のクマ対策》

市は、ツキノワグマ出没に伴う北上市危機警戒本部を設置し、警察や北上市鳥獣被害対策実施隊と連携し、追い払いや捕獲に努めています。また、市民の皆さんの安全を守るための取り組みを強化しています。

・AIカメラ・ドローンで早期発見

クマの動きをいち早く把握するため、AIカメラの設置やドローンによる上空からのパトロールを実施しています。出没が多く確認された場所にはワナも設置し、住宅地や農地への侵入防止に取り組んでいます。

・24時間体制でパトロールを強化

市民の皆さんからの通報に迅速に対応できるよう、24時間体制でパトロールを強化しています。通報が入り次第、現場へ出動し、安全確認や周辺への注意喚起を行っています。

・各種補助金

クマ撃退スプレーの購入、電気柵の購入、放任果樹の伐採、狩猟免許受験料、商工業者が実施するツキノワグマ対策設備整備の費用の一部を補助しています。



各種補助金

目撃したら...

クマを見かけたときは、安全を確保した上で、右の事項を連絡してください。

目撃した①時間②場所③頭数④クマが移動した方向など

■通報先...【平日の日中】農業振興課 ☎0197-72-8238
【平日夜間、土・日曜日、祝日】市役所代表 ☎0197-64-2111【終日】北上警察署 ☎0197-61-0110

出没情報を入力

クマ出没情報共有アプリ「Bears」は、県内のクマの出没情報を地図上で確認することができます。岩手県公式LINEを友だち追加し、受信する地域を設定すると、その地域でクマの出没情報が投稿された際に通知が届きます。ぜひ登録してご活用ください。



県公式LINE「Bears」



撮影：佐藤嘉宏さん

実りの秋はクマの季節 ～出会わない・備える～

秋はツキノワグマの活動が活発になる季節です。本年度も市街地を含む各地でツキノワグマの目撃情報が相次いでいます。山へ入る際はもちろん、日常生活の中でも注意が必要です。被害を防ぎ、安全に暮らすために、一人一人ができる対策を確認してみましょう。

■問い合わせ...農業振興課 ☎0197-72-8238



▲設置しているワナ

ワナを見つけても、危険ですので、近づかないでください。クマが警戒し捕獲できなくなります。

本市では、令和7年度に740件の目撃情報が寄せられ、過去最多を記録しました。令和8年度も8月末時点で453件と、前年同期（415件）を上回るペースで推移しています。8月の目撃情報は78件で、前年同月（57件）の約1.4倍となっています（※）。例年10月は目撃情報が増加する傾向があり、引き続き警戒が必要です。秋のクマは、冬眠に向けて体に脂肪を蓄えるため、活発にエサを探し回ります。山のドングリやブナの実に加え、カキやク



▲AIカメラで撮影されたクマ
◀設置しているAIカメラ

（※）4月から、クマ出没情報共有アプリ「Bears」への投稿情報も含むため、前年度と集計方法が異なります。また、手入れが行き届かない空き地などで草木が生い茂り、クマが目につかずに移動しやすい環境も広がっています。こうしたさまざまな要因が重なり、人里でクマに遭遇する危険性が高まっています。

Interview

将来のためにも今から対策することが重要です

岩手県環境生活部自然保護課
専門研究員 渡邊 颯太 さん

クマによる人身事故の8割以上が、防衛目的の攻撃だったというデータがあります。こうしたクマは、人の存在に気付くと自ら離れます。そのため、鈴など音の鳴るものを身に付け、クマに早めに人の存在を知らせることで、事故が起きる可能性を下げることができます。家庭や地域では、クマに「人里には食べ物があふ」と学習させることが大切です。可能な限り、カキやクリなどの果樹、農作物、ゴミといった誘引物の管理・除去や、やぶや田畑周辺の草木の刈り払いに取り組みしましょう。一度人里で食べ物を得たクマは、再び出沒しやすくなります。クマ対策は今年だけで終わる問題ではありません。今のうちから一人一人が対策を続けることが、将来の被害防止につながります。

